24日　金曜

ヨハネ

7:14 祭りもすでに半ばになったころ、イエスは宮に上って教え始められた。
7:15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は学んだこともないのに、どうして学問があるのか。」
7:16 そこで、イエスは彼らに答えられた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わされた方のものです。
7:17 だれでも神のみこころを行おうとするなら、その人には、この教えが神から出たものなのか、わたしが自分から語っているのかが分かります。
7:18 自分から語る人は自分の栄誉を求めます。しかし、自分を遣わされた方の栄誉を求める人は真実で、その人には不正がありません。
7:19 モーセはあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとするのですか。」
7:20 群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれている。だれがあなたを殺そうとしているのか。」
7:21 イエスは彼らに答えられた。「わたしが一つのわざを行い、それで、あなたがたはみな驚いています。
7:22 モーセはあなたがたに割礼を与えました。それはモーセからではなく、父祖たちから始まったことです。そして、あなたがたは安息日にも人に割礼を施しています。
7:23 モーセの律法を破らないようにと、人は安息日にも割礼を受けるのに、わたしが安息日に人の全身を健やかにしたということで、あなたがたはわたしに腹を立てるのですか。

Bible Reference 聖書の記述

7:24 うわべで人をさばかないで、正しいさばきを行いなさい。」

正しく生きる者への批判は、逆に正当性を表す結果になるものです。ここでは「この人は…どうして学問があるのか」という驚きまでもが、主イエスを「殺そうとする」批判に繋がってしまいます。イエス様はそこでご自分の正当性を明かにします。

批判と擁護の問題は多くの場合、判断基準から食い違っていることが多いものです。クリスチャン同士でも、優先順位や人と神の価値観で食い違ったままという場合もあり得るものです。

イエス様の正当性を示す判断基準は、「教えは…わたしを遣わした方のもの」であるということです。また「自分を遣わした方の栄光を求め」ているということです。つまり父なる神様のみこころに生きているということです。それは「うわべ」の律法を守っている姿勢よりも、確かなものであり、本人を保証するものです。

自分も含めて人の評価は、それだけ神様の「みこころを行おうと願うか」であり、そして行っているかです。その点を大切な価値観としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？